

平成 30 年 9 月 12 日 18 時 00 分現在

日本認知症グループホーム協会

「平成 30 年北海道胆振東部地震」被害状況および協会対応について

9 月 6 日（木）

日本認知症グループホーム協会 災害対策本部設置  
北海道支部に会員事業所の被害の情報収集を要請

9 月 7 日（金）

○札幌市

市内は人的被害なし。物的被害については情報収集中。  
水道・電気は完全ではないが徐々に復旧してきている。

○恵庭市

市内にある事業所については人的被害なし。  
物的被害については情報収集中。

○安平町

1 件の事業所（2 ユニット 18 名）については連絡がつかないため、社長のアドレスへメールを送信し、情報収集に努めている。

○その他

他の市町村については現在、情報収集中。人的・物的被害情報は把握していない。

9 月 10 日（月）

北海道支部より 82 事業所へ被害状況の調査票を F A X 送信し、34 事業所から返信があった。（それ以外は停電等で送信不可能な事業所あり）  
調査報告では、人的・建物被害はなく、電気、水道の復旧が進み通常の状態に戻りつつある。  
現在、協会に対する物的・人的支援要請についてはない。

○安平町のグループホーム（2 ユニット 18 名）については、社長より入居者・職員とも無事、目視でも建物被害はないと連絡があった。現在、近くの公民館へ避難しており、建物の安全性が確認でき次第施設に戻る予定。（施設内の片づけ等は札幌から応援を派遣し完了。）  
避難先のご入居者 2 名、褥瘡が出来たため系列病院へ入院させたとのこと。本日（9 月 10 日）より、避難所から順次、施設へ戻っている。（電気は復旧、水道はまだ断水状態）  
施設運営者の代表より、食糧・飲料の支援要請があり、北海道支部役員から提供している。

9月12日（水）

○札幌市内のグループホーム（2ユニット15名）

北海道支部より、昨日（9/11）午前9時過ぎに施設経営者へ被害状況を電話確認。

被害状況の経過

- ・震災直後に建物（室内の壁）に亀裂が発見されたが、その後亀裂が大きくなってきた。  
当面は、雨漏りなどは発生していないとのこと。
- ・この状態で冬を迎えることは、雪の重さに耐えられないのでは、寒さを防ぐことが難しいのではとの観点から、別の土地へ建て直しを検討。
- ・建て直しをする建築業者を特定し、建築に要する期間は3カ月から5カ月とのこと。
- ・その間、利用者の仮住まい等の観点から
  - ・法人内の空き家に仮住まいを検討し、その旨を札幌市に相談に行ったところ、  
→他の施設へ分散し移動（施設運営者として、分散させることは忍びがたいとのこと）  
仮住まいが札幌市でなく、北広島市であること。  
仮住まいにはスプリンクラーが設置されていない  
過去にそのような事例があるか不明

等の回答で、どのようにするか大きな課題となった。

上記の件の対応等について今後札幌市へ状況説明・相談していくとのこと。

本日午後、北海道支部が現地にて被害状況を調査。

（北海道支部の訪問前に札幌市の担当者が緊急性の確認のための現地調査に訪れていた。）

○安平町のグループホーム（2ユニット18名）

- ・入居者は9月10日に避難所から戻っている。
- ・グループホームは断水が継続しており、回復の見通しは立っていないとのこと。
- ・自衛隊の給水車より水の補給を受け、法人所有の入浴車でシャワー浴を行っている。
- ・避難所生活では入居者の方が不穏になっていたが、ホーム帰宅後は安眠されている。
- ・入居者2名の入院は、法人所属の医師が褥瘡悪化の恐れがあると判断したため。
- ・現在は流通も回復してきており、必要な物資は確保できている。
- ・職員も被災しており、法人本部（札幌市）からの応援派遣にて対応している。